

た。同窓生との記念写真。『美濃の不貞な』

あくまで「教会の無い者」て知られる。

て知られる。

追放の釜ヶ崎日雇労働者 半島出身者は、日本の敗

憤 蒼宇著

朝鮮植民地戦争

甲午農民戦争から関東大震災まで

本書は、日本の歴史意識に対する根底的批判である。日本で対アジア戦争というとき、「一五年戦争」と考えるのが定説だ(五〇年戦争、七〇年戦争)という問題提起もあ

識に対する根底的批判である。日本で対アジア戦争というとき、「一五年戦争」と考えるのが定説だ(五〇年戦争、七〇年戦争)という問題提起もあ

してある。

著者は考察対象を、甲午農民戦争、日露戦争、義兵戦争、三・一独立運

といえる日本軍司令官くあつた武断派と文治派を背に、『河北新報』は

の如く「殲滅」し続けたいという官民による一連の闘いは、「やられたらやりかえせ」というやむ

半島出身者は、日本の敗戦で「不逞鮮人」予備隊として不信の眼を解

認識を洗い流すことなく

日本人の歴史認識に対する根底的批判

日本近代史の「不在」を問い直す新視点

前田 年 昭

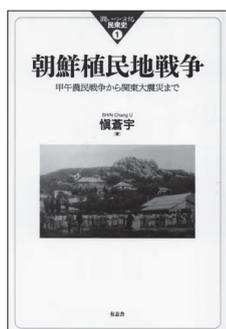
せなければならぬ、と朝鮮人蔑視にもつづく弾圧論を展開したという。

この戦時体制を支える差別意識は、日本国家が主

なかつた歴史がある(一)、労働者が彼らを資本家の

半島出身者は、日本の敗戦で「不逞鮮人」予備隊として不信の眼を解

歴史学再生の一步として注視したい。(まえだ・



四六判・318頁・3960円 有志舎 978-4-908672-76-7 TEL. 03-5929-7350



植民地戦争経験一覽」(表8)は、司令官、下士それぞれの軍歴を総覧

の文治(親日派育成)、裏面としての武断(徹底弾圧)を不即不離の連続

作農や人力車夫出身の兵士が支配者の朝鮮敵視・蔑視を内面化し、「日本

この戦時体制を支える差別意識は、日本国家が主

なかつた歴史がある(一)、労働者が彼らを資本家の

半島出身者は、日本の敗戦で「不逞鮮人」予備隊として不信の眼を解

歴史学再生の一步として注視したい。(まえだ・

形成」『大原社会問題研究所雑誌』七六四など。

★シン・チャンウー法

政大学社会学部教授・朝鮮近代史・在日朝鮮史。著書に『植民地朝鮮の警察と民衆社会』、論文に「朝鮮「暴徒」像の